

## Ⅱ. 参考推計（条件付推計）結果表

## Ⅱ. 参考推計(条件付推計)結果表

「日本の将来推計人口」は、わが国の将来の出生、死亡、ならびに国際人口移動について仮定を設け、これらに基づいて将来の人口規模および年齢構成等の人口構造の推移について推計を行ったものである。「日本の将来推計人口」(平成18年12月推計)においては、出生について3仮定、死亡について3仮定、および国際人口移動について1仮定を設け、これらの組み合わせによって9つの推計(3×3×1)を行い、その結果を公表している。

出生、死亡に対する複数の仮定は、それぞれの推移の不確実性の幅を表現しており、中位仮定を中心として、高めの推移を仮定する高位仮定、低めの推移を仮定する低位仮定の3仮定によって構成されている。これらの組み合わせによって出生中位・死亡中位推計などとして推計された9つの推計結果は、それら仮定における不確実性の幅を反映しているとともに、推計結果の差異を調べることによって、それぞれの仮定値の持つ将来人口に対する影響力を測ることができる。

このような観点からは、いくつかの基準となる条件下における推計(条件付推計)を新たに行うことによって、これらの中で、あるいは上記の既存9推計と、それぞれ比較することによって、各仮定が将来人口に対して持つ影響力をより明確に測定することができる。ここでは平成18年12月推計を基に、出生、死亡のいずれかの将来推移を2005年実績値一定とした推計(仮定値一定推計)、国際人口移動をゼロとした推計(封鎖人口推計)、ならびに平成68(2056)年以降について出生率が100年後(平成167(2155)年に人口置換水準に到達する推計(人口置換水準到達推計)について結果を報告し、利用に附すものとした。なお、封鎖人口推計と平成18年12月推計出生中位・死亡中位推計との比較による仮定値の効果の評価については、第I章第3節(3)を参照のこと。

以下のページにおいて、その結果表を報告する。配列は下記の通りである。

1. 仮定値一定推計、封鎖人口推計：平成17(2005)年～平成117(2105)年  
総人口、年齢3区分(0～14歳、15～64歳、65歳以上)別人口および年齢構造係数

結果表(1)～(3)：出生率が2005年実績値のまま一定で推移し、死亡率が中位仮定、高位仮定、ならび低位仮定の場合の3つの推計について、総人口、年齢3区分(0～14歳、15～64歳、65歳以上)別人口および年齢構造係数の結果を示す。

結果表(4)～(6)：死亡率が2005年実績値のまま一定で推移し、出生率が中位仮定、高位仮定、ならび低位仮定の場合の3つの推計について、総人口、年齢3区分(0～14歳、15～64歳、65歳以上)別人口および年齢構造係数の結果を示す。

結果表 (7) : 出生率、死亡率がともに2005年実績値のまま一定で推移した場合の推計について、総人口、年齢3区分(0～14歳、15～64歳、65歳以上)別人口および年齢構造係数の結果を示す。

結果表 (8)～(10) : 国際人口移動がなく(封鎖人口)、死亡率が中位仮定で推移し、出生率が中位仮定、高位仮定、ならび低位仮定の3つの推計について、総人口、年齢3区分(0～14歳、15～64歳、65歳以上)別人口および年齢構造係数の結果を示す。

2. 仮定値一定推計、封鎖人口推計：平成17(2005)年～平成117(2105)年  
比較表

結果表 (1)～(23) : 仮定値一定推計(7推計)、封鎖人口推計(3推計)について、23種の人口指標の年次推移の比較を示す。

3. 出生中位～人口置換水準到達(死亡中位)推計：平成68(2056)年～平成117(2105)年

結果表 (1)～(8) : 死亡率が中位仮定で、出生率が平成67(2055)年に中位仮定から平成167(2155)年に人口置換水準に到達するシナリオの推計について、8種の結果表を示す。